



かつてツオル帝国は圧倒的な力でアカファ王国に侵攻したが、突如発生した謎の病・黒狼熱(ミツアル)によって帝国軍は撤退を余儀なくされた。以降、二国は緩やかな併合関係を保っていたが、アカファ王国はウイルスを身体に宿す山犬を使ってミツアルを再び大量発生させることで反乱を企てていた。ミツアルが国中で猛威を振るう中、山犬の襲撃から生き延びたヴァンは身寄りのない少女ユナと旅に出るが、その身に病への抗体を持つ者として、治療薬開発を阻止したいアカファ王国が放った暗殺者サエから命を狙われることになる。一方、治療薬を作るためヴァンの血を求める医師のホッサルも懸命にヴァンを探していた――。

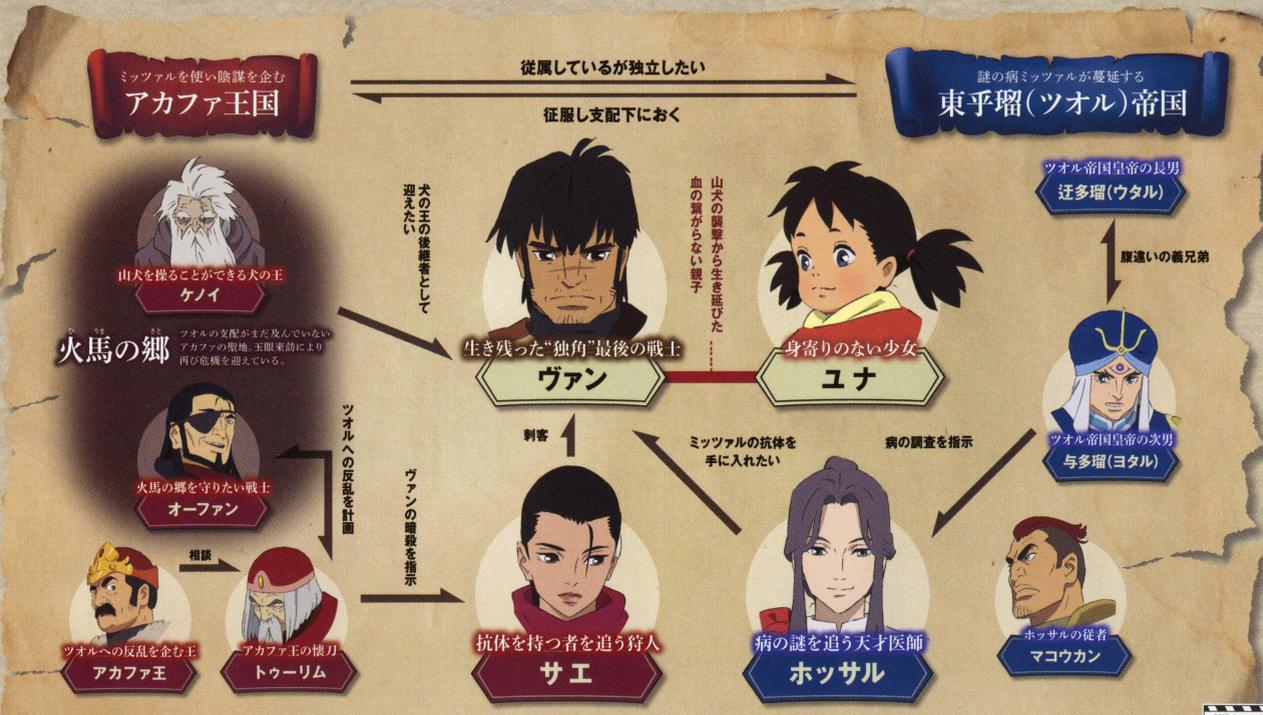
様々な思惑と陰謀が交錯した時、運命が動き始める。

ミツアル

〈世界を侵食する謎の病“黒狼熱”〉




かつてツオルがアカファに侵攻した際に発生し、ツオル軍を撤退させた疫病“ミツアル”。ヴァンが囚われていた岩窟で、山犬に噛まれて亡くなった人々の遺体を見たホッサルは、原因がこの謎の病にあると推測。治療法を探るなか、生き残ったヴァンが抗体を持っていると考え彼を探し始める。折しも、ツオルがアカファの聖地・火馬の郷に再び攻め入ろうとしていた。



劇場内での映画の撮影・録音は犯罪です
 本作品の著作権は©2021 Production I.G. 0120-550098
 複製・転載は厳禁です



「ものけ姫」「千と千尋の神隠し」「君の名は。」 「ハイキュー!!」「GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊」 「精霊の守り人」「獣の奏者」
安藤雅司 Production I.G **上橋菜穂子**

運命に抗え。未来を変える。

鹿の王

ユナと約束の旅

堤 真一 竹内涼真 杏
 木村日翠 阿部 敦 安原義人 櫻井トオル 藤 真秀 中 博史 玄田哲章 西村知道

原作:上橋菜穂子「鹿の王」(角川文庫・角川つばさ文庫 KADOKAWA刊)
 監督:安藤雅司 宮地昌幸 脚本:岸本 卓 キャラクターデザイン・作画監督:安藤雅司
 コンセプトビジュアル:島川宏樹 美術監督:大野広司 色彩設計:橋本 賢 撮影監督:田中宏待
 音響監督:菊田浩巳 音楽:富貴晴美 アニメーションプロデューサー:松下慶子
 主題歌「One Reason」milet (ソニー・ミュージックレーベルズ)

アニメーション制作:Production I.G 配給:東宝
製作:KADOKAWA 日本テレビ放送網 Production I.G 東宝 シイアル 東日本放送 読売テレビ放送 ムービーウォーカー STV MMT SDT CTV HTV FBS

2.4 FRI
 shikanoou-movie.jp

謎の病によって世界の均衡が崩れし時、「鹿の王」が現われる――。

「鹿の王」
それは仲間のために
命を懸けて戦う者たちのこと。



監督・キャラクターデザイン・作画監督

安藤雅司



© 1997 Studio Ghibli・ND



© 2001 Studio Ghibli・NDDTM



© 2016「君の名は。」製作委員会

1969年広島県生まれ。90年、日本大学芸術学部在学中にスタジオジブリを受験し合格、第2期生として入社。映画『紅の豚』(92)等で原画を務め、『もののけ姫』(97)、『千と千尋の神隠し』(01)では作画監督を担当。その後フリーになり『パプリカ』(06)、『ももへの手紙』(12)でキャラクターデザイン・作画監督で活躍。2016年には新海誠監督『君の名は。』でキャラクターデザイン・作画監督を担当した。日本アニメーション歴代興収上位のうち、3作品に携わった、日本を代表するアニメーター。

『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『君の名は。』の異才アニメーター安藤雅司が監督デビュー作で挑んだのは、2015年に本屋大賞を受賞したものの、その圧倒的スケールの物語から長らく映像化は不可能と言われてきたファンタジー原作『鹿の王』(角川文庫・角川つばさ文庫/KADOKAWA)。過酷な運命に翻弄される登場人物たちと、謎の病の壮大な戦いが日本アニメ界最高峰のスタッフによって描かれる。

『鹿の王』を書いていたとき、まさか、この物語が映画になり、パンデミックの最中に上映されるとは思っていませんでした。暗く長いトンネルの中を歩むような日々の中で、この映画を観てくださった方々は、どんな思いを抱かれるでしょう。大勢の他者と共に暮らすことは、感染の危険と共に暮らすことでもあります。それでも、他者を思う気持ちが生きる喜びに繋がることを、素直に感じられる映画にさせていただいたことに、私は心から感謝しています。

原作 **上橋菜穂子**

作家・文化人類学者。1989年、『精霊の木』で作家デビュー。2014年に児童文学のノーベル賞とされる国際アンデルセン賞作家賞受賞。主な著作に『精霊の守り人』『獣の奏者』など。



今この時代だからこそ観るべきエンターテインメント超大作がここに誕生!